

キラリ 輝いています!

■天皇盃第20回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

1月18日、広島県広島市で行われた『天皇盃第20回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会』に、埼玉県代表として川角中学校3年の橋本龍くんが出場した。今年度、3000mのタイムで全国ランキングが1位だったので、もしかしたら、選ばれるかなと思ってはいたのですが、選ばれた時は、本当に光栄に思いました」と橋本くんは、笑顔で話してくれた。

自分に限界を作らないで、どこまでも速く走れるように努力していきたいです。

橋本 龍くん 〔川角中学校〕



天皇盃第20回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会で力走する橋本くん。この大会で埼玉県チームは初優勝を遂げ、橋本くんは、2区の区間賞を獲得した。

橋本くんが走ったのは、中学生の区間である2区3km。6位で襷を受

けた橋本くんは、見る見るうちに順位を上げて、1位を走る選手に並んだ。「並走した選手が力のある選手だと分かっていたので、ラストスパート勝負では分が悪いと考えていました。そこで、少しずつ体力を消耗させようと、牽制しながら並走して、早めにスパートをかけました」と自分の走りを冷静に分析する。そして3区で待つ設楽選手へHonda

にトップで襷をつないだ。

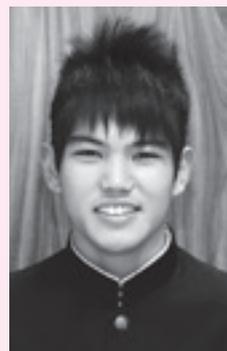
「先頭で襷を渡せたことと区間賞を取ったことを、あとで設楽さんに褒められたんです」とちょっとはにかんだ。「優勝が決まった瞬間は、今まで陸上をやっていたなかで、一番嬉しかったです。本当にすごい経験をすることができました」としっかりとした口調で話してくれた。

■ひとりで練習!

橋本くんが陸上を始めたのは、中学生になってから。小学生のころから身体を動かすことが好きだったという。そこで、何故陸上を選んだのか聞いてみた。すると「ひとりで練習ができるから」と至極単純な答えが返ってきた。「小学生のころから運動は得意なほうでしたが、一度持久走大会で10位以下になってしまったことがあったんです。それが悔しくて練習したら、その翌年は2位になったんです。陸上は、いつでも練習ができて、練習をすれば、その分結果につながることを知りました」と話す。今は、辛い練習もレースに勝つためと自分に言い聞かせて、日々のトレーニングに打ち込んでいっている。

■インターハイ、そして箱根路へ

「高校生になると、15000mや5000mといういろいろな距離を走ることができるようになります。と



橋本 龍くん (15)
川角中学校3年生・陸上部

の距離でも自己ベストを出せるように、より高いレベルの練習やいろいろな練習に取り組み、インターハイに出場してみたいです。そして、将来は箱根駅伝にも出られたらと思っています」と話す橋本くんの言葉に、目標に向かって努力を惜しまない、確固たる決意を感じた。

■どこまでも高く昇る

橋本くんは目標とする人はいるかと尋ねてみた。すると少し考えて「自分より速い人」と答えてくれた。そのためにも「限界を作らないで、どこまでも速く走れるように努力をしていきたい」と言う。そして今後は「応援してくれる人に感謝の気持ちを忘れずに、これまで以上に部活と勉強をともに頑張り、もっともっと長距離走を極めたいと思います」と力強く抱負を語ってくれた。

橋本龍くん。笑顔がとても似合う15歳。しかし、陸上の話になると強い眼差しとしっかりとした口調で、はきはきと答えてくれる。まさに『龍』のようだ。「天高く、どこまでも昇っていつてもらいたいと感じさせてくれる15歳である。」